

# 第5学年 特別の教科 道徳 学習指導案

## 1 主題構成表

主題名 セルフジャッジ      資料名 セルフジャッジ (出典 光文書院)

<p><b>■内容項目 C- (1 2) 規則の尊重</b> 法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。</p>	<p><b>■価値の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本内容項目の目指すものは、生活するうえで必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守ると共に、自他の権利を大切にし、義務を果たそうとする態度を育てることである。</li> <li>・ 子どもは成長するに伴い、所属する集団や社会を構成する一員としてさまざまな規範を身につけていく。</li> <li>・ 約束や法、きまりを進んで守ることが求められるが、そのためには、それらの存在する意義についての理解が必要である。</li> <li>・ 他者からの働きかけによるものや盲目的な遵守では、本当の規範意識とはいえない。</li> <li>・ 自他の権利を尊重するという規則の存在意義を理解するからこそ、進んでそれらを守ろうという態度につながっていくと考える。</li> </ul>	<p><b>■ 資料の分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本教材は、主人公がクラスのみんなで遊んでいる際のできごとが描かれており、子どもには身近な内容である。</li> <li>・ 審判を置かずに互いの判断で試合を進めるセルフジャッジでサッカーをしたところ、それぞれのチームがやりたい放題になり、試合がおもしろくなくなった。「好き勝手するからだ」と、どの子どもにも道徳的課題は明らかである。</li> <li>・ 「ゲームがおもしろくなくなったのはなぜか」を考える過程で、セルフジャッジの理念と好き勝手を比較し、規則の存在意義について考えられる教材といえる。</li> <li>・ 規則を守るうえで必要となる善悪を自律的に判断することや自由と責任の関係についても考えられる教材である。</li> </ul>
<p><b>■内容項目から見た児童の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級遊びや縦割り活動の時などは、グループのメンバーに合わせてルールやきまりを変更したりしていて、ルール、きまりづくりへの関心は高い。</li> <li>・ 社会や他者の規範意識や善悪の判断が欠如した振る舞いには比較的関心が高いが、日常生活において、権利や義務といった観点から自他の行動について考えたり、それらを尊重したりすることはまだまだ少ない。</li> <li>・ ルールを守ることにに対して、教師側の声かけに素直に行動することはできても、自ら動いてルールを守ろうとする意識は少ない。</li> </ul> <p><b>■要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員の意見や弱い立場の人に合わせてルール、きまりを随時変更している。</li> <li>・ 自身への認知の弱さと、よりよく生きたいという思いとの間に隔たりが存在している。</li> <li>・ 社会のルールだから、学校のルールだからという気持ちで、割り切って守っている児童がいる。</li> </ul>	<p><b>■ねらい</b></p> <p>きまりが何のために存在するのかを考えることを通して、その意義を理解し、進んでそれを守り、自分の義務を果たしていこうとする心情を育てる。</p>	
<p><b>■展開の構想</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間の学級遊びや体育の授業での経験から、自分たちで判断しながら遊んだ時のルールを破った時のトラブルや思いに気付かせる。</li> <li>・ 勝ち負けが関わった時に自分たちで判断することの難しさに気付かせる。</li> <li>・ 好き勝手をすることが楽しい生活にはつながらないことに気付かせる。</li> <li>・ きまりが自分を含めたみんなを守り、みんなが楽しく活動するためにあることに気付かせる。</li> <li>・ 本時の学びや自分の経験を振り返ることで、自分自身の改善点を考え、みんなと楽しく活動するためにきまりを守っていこうとする心情を高める。</li> </ul>	<p><b>■基本発問 (◎中心発問)</b></p> <p>○きまりは何のためにあるのでしょうか。</p> <p>○セルフジャッジというルールについて、あなたはどのように思いますか。</p> <p>◎ゲームがおもしろくなくなったのは、なぜでしょう。</p> <p>○きまりは何のためにあると思いますか。</p> <p>○あなたがセルフジャッジをするときに、気をつけたいことはどんなことですか。</p>	

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1. 資料への導入を行う。 きまりについての考えを話し合う。</p> <p>○ きまりは何のためにあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりがあるから安心できるようになっている。</li> <li>・みんな気持ちよく過ごすため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で立てた問いを意識しながら教材を読むように促す。</li> </ul>
展開	<p>2. 資料を読み、きまりを守る大切さについて考え、交流する。</p> <p>○ セルフジャッジというルールについて、あなたはどのように思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながルールを知っていれば審判はいらないと思うので賛成。</li> <li>・それぞれのチームが反則をしてしまうから、私は反対。</li> <li>・審判がいても、反則をする人はいるんじゃないかな。</li> </ul> <p>◎ ゲームがおもしろくなくなったのは、なぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらもチームも自分たちの都合のいいようにジャッジしたから。</li> <li>・勝ちたい気持ちばかりで、ルールを守る気持ちがなかったから。</li> <li>・好き勝手してしまったから。</li> <li>・自分たちの心に負けてしまったから。</li> </ul> <p>○ きまりは何のためにあると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しく過ごすため。</li> <li>・そこにいるみんなを守るため。</li> <li>・きまりを守ることで周りの仲間だけでなく、自分も楽しく過ごすため。</li> </ul> <p>きまりは自分を含めた、全員が楽しく活動できるようにするためがある。だから、きまりを自分のため、みんなのために守っていこう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間の学級遊びや体育の授業での経験を想起させる。</li> <li>・子どもの発言をプラス面とマイナス面に整理して板書する。その際、どちらに進むか判断する鍵となるのがルールであると、分かるように整理する。</li> <li>・ワークシートへ記述する。</li> <li>・主人公たちの自己中心的な考えの結果だという意見に対して、「それがセルフジャッジじゃないの」と投げかける。</li> </ul> <p>☆深めの発問 遊びの中で自分が好きにやれるのだから楽しいのではないか。</p> <p>好き勝手をすることが楽しい生活につながらないことから、きまりの存在意義への理解が深まったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの考えを受容することで、規範意識の構成につなげる。</li> </ul>
終末	<p>3. 今日の学習から考えたことをまとめ、交流する。</p> <p>○ あなたがセルフジャッジをするときに、気をつけたいことはどんなことですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これくらいなら大丈夫」という弱い気持ちに負けないようにしたい。</li> <li>・みんなも自分も気持ちよく生活したり、楽しく活動したりできるようにしたい。</li> </ul> <p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへ記述する。</li> <li>・書くことで理解を確かにし、実践への意欲や態度につなげる。</li> </ul> <p>書く時の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだこと</li> <li>・これまでの自分</li> <li>・これからの自分</li> </ul> <p>きまりを守るための課題を考え、きまりを守っていこうとしている。</p>

### 3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

#### <場の内容とねらい>

#### <日常活動>

#### <児童の意識>

#### <指導・援助>

**学級活動**  
学級目標づくり

- ・活動を一部の人のみで進めていくのではなく、得意不得意があるが、仲間との競い合いや支え合いを大切にしたいという願いから「仲間～共に高め合う5年生～」という学級目標に決まった。
- ・毎日の生活の中で、学級目標を意識して行動する。

**委員会活動**

- ・「きもちのよい中小」に向けて、各委員会の視点から見た学校のきまりについて呼びかけ合う。

**朝の会**

- ・毎日「今日の目標」を決め、達成できるように気がついた子が呼びかけ、声をかけ合う。

- ・右側通行できるように声をかけよう。
- ・時間を守るように休み時間に声をかけよう。
- ・友達からきまりを教えられたら、素直に聞くようにしよう。

- ・朝の会や帰りの会で仲間のよいところを見つけ、認める場を設定する。
- ・いろいろな子と関わる機会を増やすために、席替えを定期的に行う。
- ・学級のみんで頑張っていることを学級目標と照らし合わせて、価値づける。

- ・各教科の学び方を全体で確認して、見通しをもちながら学ぶことができるようにする。
- ・体育「マット運動」では、安全面のルールと高め合うための声かけや行動のルールを設け、楽しく運動したり、自分の技術レベルを上げたりする。

**休み時間**

- ・学級遊びの時間を位置づけ、全員が楽しく遊べるように、話し合いで遊びを決めたり、ルールを工夫したりする。

- ・今の作業が早く終わったから、この作業をして待っていよう。
- ・マットを運ぶ時は、数人で運ぼう。
- ・声をかけ合ったら準備が素早くできた。
- ・トラブルがないと運動が楽しい。

- ・学びの手順や活動を明確にして、児童が自主的に学び続ける環境を整える。
- ・仲間との関わりをふやし、お互いの思いに触れながら活動できるようにする。

**道徳の時間**  
「セルフジャッジ」  
内容項目 C-(12)

- ・きまりが自分を含めたみんなを守り、みんなが楽しく活動するためにあることに気付き、進んでそれを守り、自分の義務を果たしていこうとする心情を育てる。

**帰りの会**

- ・学級目標の達成のために規則を守って活動する児童の姿を交流し、充実感や達成感を感じ取る。

- ・ぼくも同じ思いをしたことがあるな。
- ・ボールがコートから出た時にどっちのボールかでもめたな。
- ・だれかが怒り出すと、試合がカリカリした雰囲気で行われたな。

- ・自分の体験を交えて話せるように、同じような経験がないか、確認しながら進めていく。
- ・どの子も自分の言葉で思いが伝えられるように、話す活動だけでなく、書く活動も取り入れる。

**学校行事**

- ・宿泊研修に自分たちで計画したレクリエーション活動を行い、ルールを守り、自他を尊重した態度で楽しむことができる。

**家庭との連携**

- ・学級通信に「道徳コーナー～学びの足跡～」を位置づけ、規則を尊重して自律しようとする実践意欲を高める。

- ・みんなで決めたルールだから守ろう。
- ・ルールを守ると、いつもの遊びがもっと楽しいな。
- ・ルールをきちんと決めておくことは大切だ。

- ・諸活動の計画の段階で学級の仲間の意見を取り入れながら、進めていけるように声をかける。